

## 令和2年2月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km<sup>2</sup>)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	5,500	8,846	4,512	4,334	△ 2	0
2 千 石	4,050	6,823	3,415	3,408	19	8
3 内 山	5,700	7,868	4,160	3,708	△ 5	△ 17
4 大 和	3,447	6,735	3,305	3,430	1	2
5 上 野	7,392	15,536	7,712	7,824	45	105
6 高 見	7,369	13,479	6,452	7,027	8	17
7 春 岡	6,929	10,974	5,765	5,209	9	34
8 田 代	11,536	22,050	10,620	11,430	△ 23	△ 43
9 東 山	10,465	19,660	9,715	9,945	△ 2	5
10 見 付	4,397	8,098	4,105	3,993	△ 12	△ 1
11 星 ケ 丘	3,520	6,904	3,131	3,773	0	6
12 自 由 ケ 丘	3,513	7,139	3,238	3,901	5	6
13 富 士 見 台	6,448	15,247	7,095	8,152	7	21
14 宮 根	3,860	8,197	3,906	4,291	11	1
15 千 代 田 橋	3,702	8,456	3,968	4,488	△ 2	△ 9
千 種 区 計	87,828	166,012	81,099	84,913	59	135
H31.2.1	87,271	165,926	81,069	84,857	△ 22	△ 9
対 前 年 比	557	86	30	56	81	144
名 古 屋 市	1,119,804	2,328,091	1,149,664	1,178,427	△ 102	△ 562
愛 知 県 ( R2.1.1 )	3,245,673	7,553,395	3,779,888	3,773,507	294	△ 274

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	113	160	△ 47	882	700	182

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口	
昭和55年	166,837	平成12年	148,537	173,598 (昭和50年2月1日)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118		
平成2年	156,478	平成22年	160,015	これまでの最少人口	
平成7年	148,847	平成27年	164,696	146,727 (平成11年4月1日)	

注) 世帯数と人口は、平成27年国勢調査結果確定値を基礎とし、毎月の住民基本台帳人口の異動数を加減して推計したものである。

## 千種区の性比の状況

今回は、千種区の性比（女性の人口を100とした場合の男性の人口数）の状況を見てみます。

図1：名古屋市全体および各区の性比（各年10月1日）

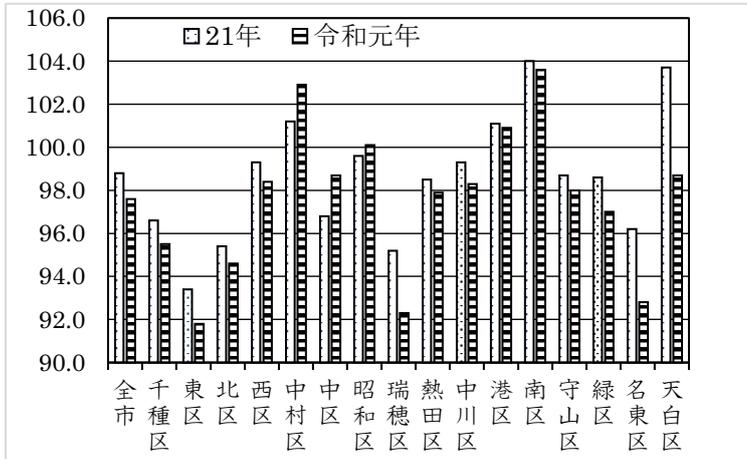


図1は名古屋市全体と各区の性比を示しています。千種区の令和元年10月1日現在の性比は95.5です。これは名古屋市全体（97.6）を下回っており、16区中12番目に低い値となっています。性比が最も高いのは南区（103.6）、最も低いのは東区（91.8）です。平成21年と比較すると千種区は96.6から1.1下がっており、名古屋市全体でも中村区、中区、昭和区以外の区で下がっています。

図2：年齢5歳階級別の性比（令和元年10月1日）

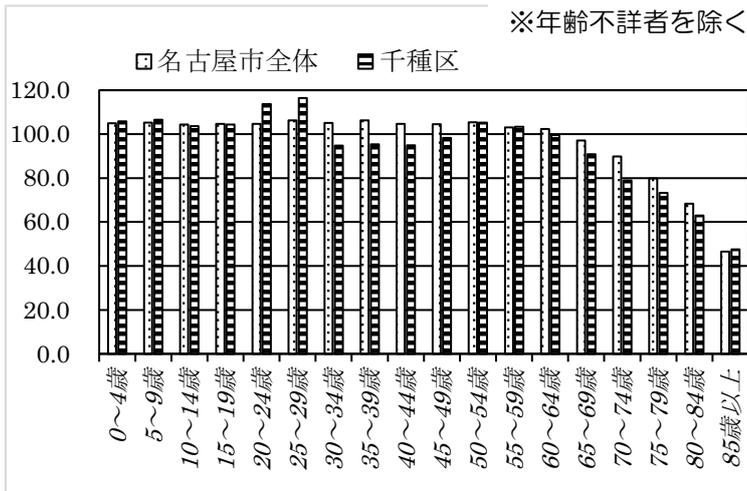


図2では、名古屋市全体と千種区の年齢5歳階級別の性比を示しています。千種区では0歳～29歳の区分で105前後と高い一方、30歳からは50歳～59歳以外で100を下回っています。一方、名古屋市全体では0歳～64歳の全ての区分で100を超える数値となっています。

図3：各学区別の性比（各年10月1日）

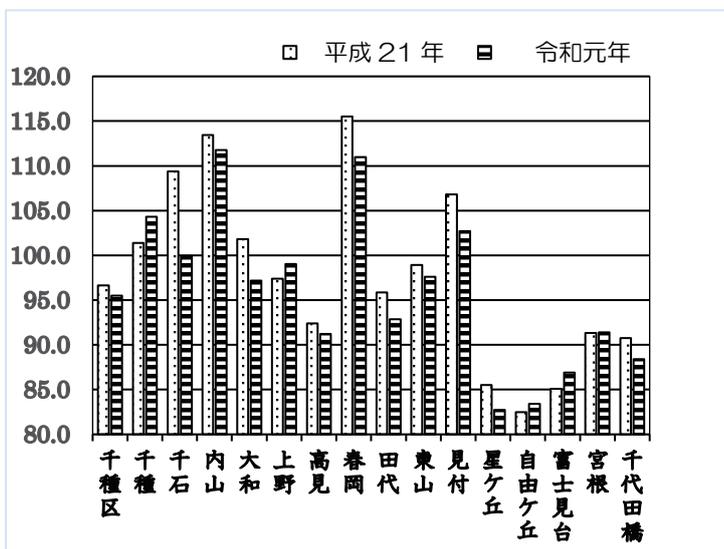


図3では、千種区内の各学区の性比を示しています。令和元年10月1日現在で性比が最も高いのは内山学区（111.8）、最も低いのは星ヶ丘学区（82.7）でした。

また、平成21年10月1日現在の性比が最も高いのは春岡学区（115.5）、最も低いのは自由ヶ丘学区（82.5）でした。両年を比較すると、10年間で性比が高くなった学区は5学区、低くなった学区は10学区でした。